



福井大学の特色ある取組

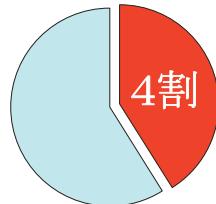
福井大学は、社会から頼りにされる“元気な大学”の実現を目指します。

2011年4月

(1) 地域を支える優れた人材の輩出

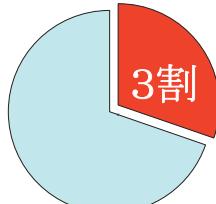
■教育地域科学部　－地域の次世代を育てる教員の養成－

- 福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,743人
- うち本学の卒業生数 3,262人



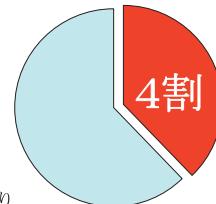
■医学部　－地域医療を担う医療人の養成－

- 福井県の医師数 1,851人
- うち本学の卒業生数 562人
- 看護学科では県内で唯一助産師を養成



■工学部　－地域産業を創造する技術者の養成－

- 福井県のエンジニア、科学研究者 12,371人
- うち本学の卒業生数 4,684人



※福井県のデータは、教:平成21年度学校基本調査、医:平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査、工:平成17年国勢調査より。福井大学卒業生のデータは、いずれも平成22年度時点の同窓会データより。

(2) 優れた教育プログラムの提供

■文部科学省が行う大学教育改革支援プログラムにこれまで18件採択



学科・学年の枠を越えた
少人数グループによる技術者の育成



子ども主体の学習を学生が支援

採択件数、
教員一人当たりの
採択率は
国立大学トップクラス

H15-22 年度実績。福井大学事務局調べ

■市民開放プログラムにより生涯学習の機会を提供

○ 豊富な授業科目受講の機会を提供

- 例：「日本文学の楽しみ」
- 「介護の現状と介護保険制度」
- 「原子力システム概論」他
- 30歳代～80歳代の方
- 前後期142名が受講

(H22年度実績)

共通教育 104科目
専門教育 133科目
(H22年度
開放科目数)



修了証書の授与

(3) 実践力重視の教員養成教育

■ 「福井大学方式」：学校現場が大学院

- 小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に
- 米国、フィンランド、中国、韓国との国際共同研究を展開

■ 1年間の長期インターンシップ

『実践重視の福井大学方式を高く評価』



鈴木寛文部科学副大臣

学校現場を「講義室」として位置付け、教員が出向いて現職教員の院生と教育研究を行ったり、学部卒の院生に1年間学校でのインターンシップを課す学校拠点方式を高く評価し、「(教師教育)改革のモデルにしたい。」と話した。

H22. 2. 28 福井新聞記事より



(4) 高度な臨床能力を備えた医療人の育成

■ 世界をリードする画像医学教育

- CT、MR、PET等の画像診断が格段に進展する一方、医学教育での「診断」に関する教育は大きな改革がなされず、求められる知識・経験と教育のギャップが顕在化

- この現状打破のために人体解剖画像、病理組織画像に加え先進臨床画像や分子イメージング画像を統合した双方向対話型先進画像システムを導入

- 現代医学と医学教育とのギャップを一举に解消する世界でも例を見ない革新的な医学教育を実施



画像データベースを基にモニター上で討論

■ 看護キャリアアップセンター：高度専門化に対応する看護師の育成



看護演習の様子

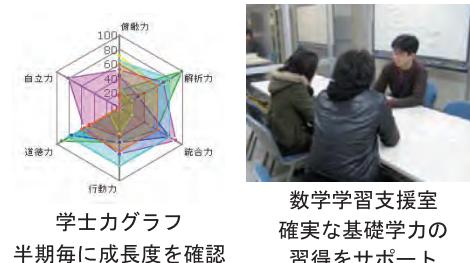
- 高度専門化する医療・看護の社会的ニーズに応えるべく、より質の高い看護ケアを提供する看護職のキャリアアップを目的に開設

- 医学部附属病院とともに多面的な視野で実践研究に取り組み、看護学における教育・研究活動を地域社会に還元

(5) 実践的能力を備えた技術者の養成

■充実した学士力を身につける初年次教育プログラム

- グループワークでジェネリック・スキル（汎用的能力）向上
- JIBUNポートフォリオで自己教育・就職活動サポート
- 先輩セミナーにより職業観を形成・勉学意欲高揚
- 補習授業により基礎学力を定着
- 複合型高大連携で専門科目へ滑らかに接続



数学学習支援室
確実な基礎学力の
習得をサポート

■夢を形にする技術者育成プログラム

○学科や学年を越えた学生主体の創成活動

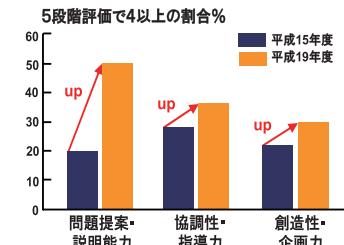
- <育成される能力>
- 広い視野と創造力・企画力
 - 課題を発見・解決する力
 - 提案・説明する力
 - 協調する力



福井大学フォーミュラ製作プロジェクト
(機械工学科 他)

→ 就職先企業からも高く評価

就職先企業に対するアンケート調査(78社)



(6) 就職率 国立大学1位を獲得※

■卒業生が1,000人以上の大学 (平成21年度実績)

- ・就職率 94.3%は、国立大学1位
- ・全ての国公私立大学の中で2位

■複数学部を有する国立大学では 3年連続1位を獲得

- ・H19年度 95.3%
- ・H20年度 97.2%
- ・H21年度 94.3%

■就職委員、就職支援室による きめ細かな支援

■文部科学省H22年度 「大学生の就業力育成支援事業」に選定

全国230大学 就職率ランキング (卒業生数1,000人以上)

順位	区分	大学(所在地)	卒業生数	就職決定者数	大学院進学者数	08就職率	09就職率	10就職率
1	私立	国際医療福祉大学(栃木)	1,120	1,053	25	96.5	93.0	96.2
2	国立	福井大学(福井)	1,228	833	345	95.3	97.2	94.3
3	国立	九州工業大学(福岡)	1,652	905	688	94.6	95.8	93.9
4	国立	東京工業大学(東京)	3,058	1,623	1,281	87.2	90.6	91.3
5	国立	岐阜大学(岐阜)	1,370	804	489	—	94.8	91.3
6	国立	名古屋大学(愛知)	2,204	949	1,151	79.4	90.0	90.1
7	私立	芝浦工業大学(東京)	1,733	1,092	517	93.3	91.3	89.8
8	私立	東京理科大学(東京)	4,149	2,223	1,672	92.6	91.6	89.7
9	私立	愛知工業大学(愛知)	1,112	886	124	97.2	96.7	89.7
10	国立	秋田大学(秋田)	1,000	700	214	91.1	92.1	89.1
11	私立	金沢工業大学(石川)	1,780	1,310	308	96.3	95.6	89.0
12	国立	信州大学(長野)	1,943	1,098	704	83.5	88.4	88.6
13	国立	鳥取大学(鳥取)	1,439	891	431	89.2	—	88.4
14	国立	香川大学(香川)	1,235	862	251	—	84.2	87.6
15	国立	群馬大学(群馬)	1,771	1,143	465	90.8	—	87.5
16	国立	新潟大学(新潟)	3,175	2,138	718	87.7	89.1	87.0
17	私立	北里大学(北海道)	1,305	924	240	93.7	91.3	86.8
18	国立	電気通信大学(東京)	1,319	686	525	96.8	93.0	86.4
19	国立	京都工芸繊維大学(京都)	1,152	571	489	85.2	87.0	86.1
20	国立	宇都宮大学(栃木)	1,414	893	376	89.5	88.5	86.0

※卒業生数1,000人以上の大学、「—」はデータがないことや算出できないことを示す。

※サンダー毎日 2010年7月25日号

「就職特集第1弾 全国230大学 就職率ランキング」より

2. 研究 ~ 科学技術の発展と地域社会への貢献 ~

(1) 地域特性を活かした世界的水準の研究の展開

原子力・放射線の平和利用

■附属国際原子力工学研究所

(平成21年度設置・平成23年度学生受入)

- 福井県の「もんじゅ」等世界有数の原子力関係施設の活用を目指し研究を開始
- 高速炉その他の分野で世界トップレベルの研究開発と人材育成を目指す

■高エネルギー医学研究センター

- 放射線を介して医学、薬学、工学を融合し、生体画像診断、新薬研究、分子イメージング、高次機能研究などを通じて医療の向上と

社会貢献を目指す



第1回福井県科学学術大賞
受賞 (H18. 2. 7)



天野 之弥
国際原子力機関
(IAEA)事務局長

福井大学は「放射線がん治療の分野で最先端の研究を推進し、発展途上国に技術指導できる人材も豊富である」と高く評価された。

IAEA天野次期事務局長

「福井は世界の財産」
原子力平和利用の取り組み

原子力の平和利用に取り組む福井は世界の財産です。1月、国際原子力機関(IAEA)次期事務局長の天野之弥さん(62)は福井市内で講演し、高速炉「もんじゅ」や福井の大規模な放射線がん治療の研究などを挙げて、IAEAが自慢する原子力の平和利用を実践している世界有数の地域と評価した。講演後県長を訪れ、西川誠知事に「福井には原子力に携わる人材育成に期待しています」とあいさつした。

H21. 10. 2 朝日新聞 25面

PET薬剤（放射性薬剤）製造用
「サイクロトロン」



(2) 特色ある研究の取り組み①

■医学部

○免疫学・神経科学の論文引用度は、全国の研究機関の中でトップクラス※

※H13~17 免疫学3位。H14~18 神経科学9位。2008・2009 年度版大学ランキング(朝日新聞社)より。

ISIデータベースにより5年間の論文37万件について引用回数を調査

- 機能するたんぱく質1分子の構造変化をリアルタイムで捉え、文部科学大臣表彰受賞
…細胞異常が原因といわれる糖尿病などの新薬開発の道を拓く

第6回福井県科学学術大賞
受賞 (H23. 2. 7)

■遠赤外領域開発研究センター



- 遠赤外領域における電磁波発生器「ジャイロトロン」を独自開発
- 世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を実証し、文部科学大臣表彰受賞
- 国内外多数の研究機関とのグローバルな研究協力を展開



電磁波発生装置
「ジャイロトロン」

■附属子どものこころの発達研究センター

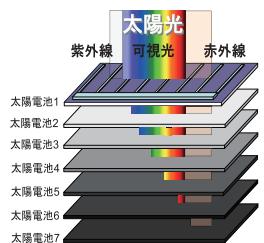
- 大阪大学・浜松医科大学・金沢大学・千葉大学と連合し、ALL JAPAN の教育研究体制の形成
- 附属病院に子どものこころの診療部門設置

(3) 特色ある研究の取り組み②

■工学研究科

○次世代高効率太陽電池の研究開発

窒化物タンデム太陽電池を世界初提案



タンデム型太陽電池とは？

利用波長の異なる太陽電池を複数積み重ねたもの



H22.7.8 川端文部科学大臣（当時：右）
笛木文部科学副大臣（現在：左）
実験室視察

<その他工学研究科の特色ある研究>

○液体窒素冷却高温超電導モータの開発



○リチウムイオン電池の開発



○宇宙太陽光エネルギー利用レーザーの開発

○未来の新しい電力ネットワーク

など

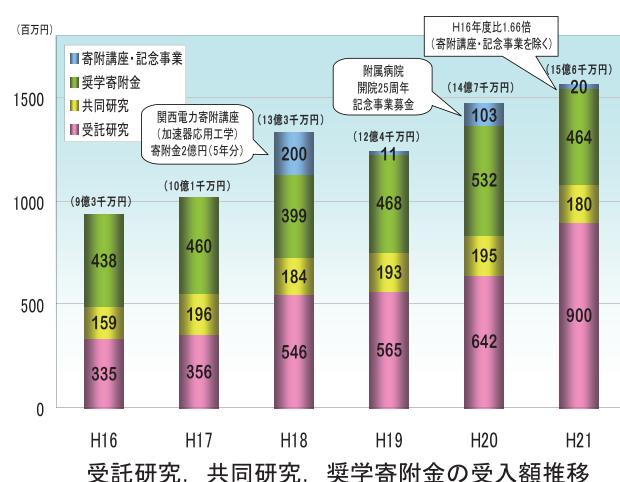
(4) 「福井方式」による地元産業界との連携

■産学官連携本部

○産学官が一体となって整備した「地域 産学官共同研究拠点」の稼動により、環境・エネルギーに関する共同研究を推進

○産業現場で活躍できる人材を産業界とともに育成

○地域企業を中心とした200余の企業・機関による「福井大学産学官連携本部協力会」から支援を戴いて産学官連携活動を展開



■地元産業界との“福井方式”による産学官連携・共同研究プロジェクトを推進

※ “福井方式”とは、

大学とふくい産業支援センターが緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式

3. 医療～すべては“患者中心の医療”的ために～

(1) 最高・最新の医療を安心と信頼の下で

■医学部附属病院 入院患者数及び外来患者数

○平成21年度 外来患者延べ数 276,890人

○平成21年度 入院患者延べ数 186,333人

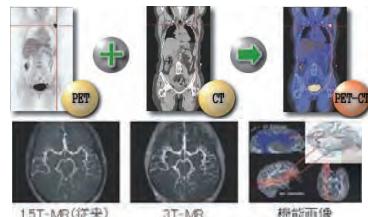
※入院中他科受診を含む

■県内で唯一の特定機能病院として先進医療と高度医療を提供

○「最後の砦」として最重症疾患患者を受入

■先端医療画像センター

○「専門ドック」腫瘍ドック、脳ドック



専門ドック「先端医療があなたの命を守る」

■治験・先進医療センター

○新しい治療法や薬剤の使用法の取組を実践展開



臨床教育研修センターでの実技研修

■臨床教育研修センター

○研修医・新人看護師等、次代を担う医療人の育成拠点

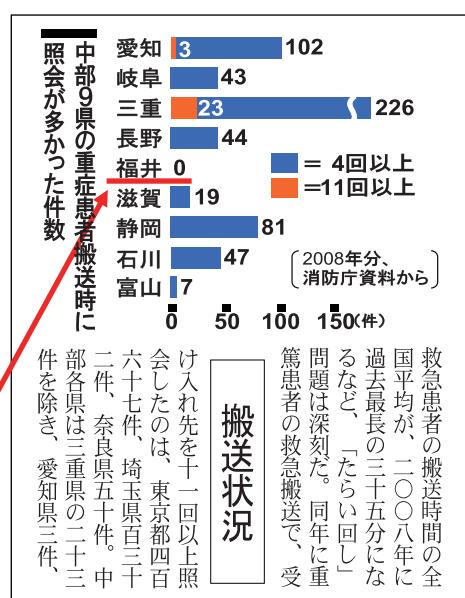
(2) “断らない救急”を実現

■福井県内唯一の医学部として、県内を中心に162の医療機関に医師を派遣

■大学病院初の北米型（ER型）救急により、365日24時間の受入体制を確立



本学附属病院は、全ての患者を受け入れ“地域医療の最後の砦”として、迅速に対応できる環境を整備している。



(3) 地域医療の担い手の育成

■ 「救急に強い総合医養成」

… 全国でも新しい取組である総合診療と救急の統合部門での研修

○病気からケガまであらゆる症状の患者を診断し、治療する救急外来

○あらゆる疾患を診療できる“総合医”の育成

○指導医が常駐する地域診療所での研修



- ・ E R型「救急医」
- ・ 一般内科を中心に行う「総合内科医」
- ・ 地域に密着した「家庭医」



■ 地域プライマリケア講座（福井県高浜町からの寄附講座）

… 「医師は地域が育て、守る」

○和田診療所、高浜病院にて学生や研修医教育を通じて地域医療

再生の鍵となる家庭医・総合医を育成

○高浜町を訪れた研修医…1名（H16）から71名（H21）に



在宅診療を行う医師と研修医

(4) “健康長寿ふくい”のために

■ 福井県からの寄附講座「地域医療推進講座」設置

○研修医に魅力のある研修システムの構築

○医師不足地域への新たな医師派遣システムの構築



寄附講座協定書締結式

■ 産婦人科医が不足している地域の分娩を支援

○分娩できる病院のない自治体（勝山市・大野市）の支援のため、設備を整備し分娩を受入

…自治体から大学へ寄付の条件を緩和する法改正に繋がるモデル的ケースに

■ 地域医療連携部

○高度医療を担う医学部附属病院と、地域医療機関が連携し、
患者さんに満足いただける質の高い医療を提供



TV会議システムを利用した医療支援

■ 働地医療を遠隔診断により支援

○TV会議システム、遠隔病理診断及び
遠隔画像診断による支援

4. 評価～福井大学の実力～

(1) 第1期中期目標期間評価 地方総合大学1位

■福井大学の教育・研究・社会連携・国際交流・業務運営に対して高い評価を獲得

全国86国立大学の中で総合7位

国立大学評議会（文部科学省）が
公表する基準による評価ランキング

順位	大学名	総合評価 ウエイト
1	奈良先端科学技術大学院	70.00
2	滋賀医科	63.75
3	浜松医科	60.64
4	東京工業	60.18
5	お茶の水女子	59.93
6	東京	56.87
7	福井	54.50
8	東京医科歯科	53.26
9	東京外国語	52.89
10	京都	51.30

地方総合大学中1位
北信越ブロック1位

項目別評価点

	教育	研究	達成状況	業務運営	総合評価
福井大学	8.50	3.00	4.00	6.00	54.50
86大学平均	6.05	2.71	3.44	5.77	44.69

※総合評価=(教育+研究)×3+(達成状況+業務運営)×2

H22.3.25 朝日新聞1面

(2) “未来の科学者”養成で全国トップの評価

■科学技術振興機構主催の「未来の科学者養成講座」において、福井大学生命科学複合研究教育センターの「フューチャーサイエンティスト育成プログラム：学び担えよ 先端的生命医科学」が全国トップの評価を獲得

平成21年度 総合評価（上位3機関）

順位	大学名	所在地
第1位	福井大学	福井県
第2位	京都大学	京都府
第3位	東北大学	宮城県

【参加大学】

北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、慶應義塾大学、早稲田大学、埼玉大学、京都大学、福井大学、岡山大学、広島市立大学、愛媛大学、九州大学



「未来の科学者養成講座」ラボ実習の様子

評価委員のコメント(抜粋)

- ・生命科学者を目指す高校生に福井大学全学をあげて「出る杭を伸ばす」教育プログラムを実践しておられることに感心しました。
- ・計画、プログラム内容、評価方法の開発、取り組み姿勢 etc…大変丁寧で着実に行われている。プレゼンの完成度、生徒の取り組み姿勢にもその成果が現れている。
- ・多くの体験プログラムが用意されており、大学側の熱意を感じる。

5. 学生～福井大学で輝いている姿～

(1) 学生の力で地域貢献



永平寺消防団救命講習会

■「永平寺消防団大学生防災サポーター」

- 医学部学生が「機能別消防団員」として入団し、様々な地域防災計画に基づく訓練等に参加。大学で学んだ専門知識を生かして、大規模災害時の避難所等で応急救護での活動が期待されている



駅前活性化のための討論会

■「学生発信！駅前プロデュース」

- 昼でもシャッターが下り、人通りの少なさが目立つ福井駅前を学生の力でなんとかしたい！と立ち上がり、県内外の他大学生とも連携して地元の活性化に取組



学生目線で人が集まるイベントを企画（たわら屋にて）

■「たわら屋」

- 地元の田原町商店街と学生が連携して、空き店舗を利用した活動拠点を作り、商店街の活性化のために様々な企画を共同で実施。活気を取り戻しつつあると、全国紙にも取り上げられ、注目されている取組



(2) 幻想的な明かりで心の癒しを

■キャンパスイルミネーションを両キャンパスで開催

- 文京・松岡両キャンパスの学生が協力して、学生・地域の方々や、附属病院に入院中の患者さん等に心を癒してもらおうと、やわらかな光を放つオブジェ・行灯等を設置、癒しの空間を創設

～患者さんからの声（松岡キャンパス実施）～
「とても心が癒されました。感謝申し上げます。」

(3) 音楽で繋がる福井大学



福井大学イメージミュージックの演奏

■地元企業の支援のもと、

学生主体で「卒業記念音楽会」を開催

- 卒業生と在学生の繋がりを強めようと、学生主体で開催
- 大学のイメージソング・イメージミュージックやプロの演奏を地域貢献の一環として一般の方々にも公開

～参加者からの声～

「学生スタッフの企画で開かれた大学・未来に向けた力を感じた。」「遠方から電車で来た甲斐があった。至福の瞬間だった。」

福井大学の理念

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国および国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的でかつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究および医学研究を行い、専門医療を実践することを目的としています。

このような理念を踏まえ、本学では、次の4点を長期目標として、教育、研究および社会貢献などを推進します。

長期目標

- (1) 21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。
- (2) 教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに、本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。
- (3) 優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。
- (4) ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し、社会から頼りにされる元気な大学になります。

各学部の目的

【教育地域科学部】

実践的力量のある学校教員の養成、地域の創造と発展に貢献できる人材の養成を目的とし、教育科学や地域科学の学際的総合的な研究成果によって広く社会の発展に寄与することを使命とします。

【医学部】

学術の中心として、高度に発展した医学および看護学の知識を修得させ、生命尊重を第一義とし、医および看護の倫理に徹した、人格高潔な、信頼し得る臨床医、医学研究者、看護職および看護学研究者を育成することを目的とし、もって、医学および看護学の進展、国民の健康増進および社会の福祉に貢献することを使命とします。

【工学部】

基礎的な知識・教養と高度な専門能力に加え、創造力、評価力、自己学習力およびコミュニケーション能力を併せた総合能力を持つ技術者・研究者を養成します。また、地域社会と国際社会の豊かな発展に寄与することを目的に、広く工学全般にわたって教育研究を行い、その成果を社会に還元します。

各研究科の目的

【教育学研究科】

教育改革の一環としての大学の活性化と専門職としての教員の養成、特に現職教員等の再教育という社会の要請に応えることを踏まえて、教員養成を主たる目的とする学部を中心とし、その基礎に立って、教育にかかわる学問・芸術の諸問題について高度な見識と実践力を持ち、教育の今日的諸問題の解決に寄与するとともに、21世紀を担う子どもたちの育成に貢献できる、専門的力量を備えた人材を養成することを目的とします。

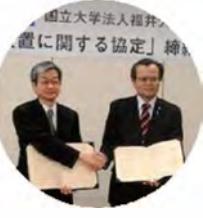
【医学系研究科】

高度な医学および看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い医療倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とします。

【工学研究科】

確かな専門知識と高い倫理観を有し、自然や環境と調和した人間社会の豊かな発展に貢献できる高度専門技術者や研究者等を養成します。また、地域の研究拠点となることを目的に、基礎的研究から最先端技術の開発まで、工学に関わる幅広い学問分野の教育研究を推進します。

社会 貢献



医療